(1/3)

2021年12月吉日

会　員　各　位

千葉県環境計量協会

会 長 福田 茂晴

総務委員長 安田 喜孝

**新春講演会の開催のお知らせ**

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より当協会に対しまして格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標題の件につきまして、新春講演会の開催を2年ぶりとなりますが、会場開催

と「Zoom」によるオンライン開催を、ハイブリッドで実施する事と致しました。

参加希望される会員様は次項フォームにご記入頂き、事務局までお申込みをお願い

致します。オンライン希望の会員様には、お申込み時にご記入頂いたメールアドレス

に招待メールを送付致します。

尚、**お申込みは2022年1月7日(金)までに**お願い致します。

敬具

記

1.日時　：2022年1月28日（金）

2.受付　：14時30分～

3.開始　：15時00分～

4.会場　：プラザ菜の花 4Ｆ「槇1・槇2」(千葉市中央区長洲1-8-1　TEL043-222-8271)

5.進行　：①開会挨拶

②千葉県計量検定所より連絡事項

③事務連絡(技術委員会より新着情報)

　　　　　「六価クロム基準値強化にあたって、地盤材料の対応の方向性」

④講演

演題　「全球入魂！仕事とは何か？」山﨑　夏生(やまざき　なつお）様

(要約)

選手はその場、その場での一球入魂でよいのですが、審判は1回の表の

1球目からゲームセットの瞬間まで全ての投球、打球、送球に関わります。

野球を舞台に審判として常に正確な判定が求められる仕事を続けた経験

から、凡人がひたむきに頑張ることの尊さ、それを支える家族や周囲の

人々への感謝、努力は必ずや報われるという楽観主義について語ります。

※経歴のご紹介を、別紙添付させて頂きます。

　　　　　⑤閉会挨拶

(2/3)

4.申込要項

下記宛ファックスまたはメールでお申し込み下さい。

有限会社ケーズオフィス内　千環協事務局（川添）

FAX 043-233-8960 TEL 043-233-8967

メールアドレス：jimukyoku@senkankyo.jp

申込み締切　　：2022年　1月　7日(金)

　　　　※会場開催は新型コロナウイルス感染症対策から、関係者・役員を除き定員を

30名とさせて頂いております。

**新春講演会　参加申込書**

|  |  |
| --- | --- |
| 貴事業所名 |  |

※いずれかに〇をつけてください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 参加者氏名 | 会場参加 | Zoom参加 | E-mail　(同じ場合は、「同」とご記入下さい） |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

※ご記入頂いたアドレスに招待状メールを送信し、Zoomへ入室頂きます。

※参加を希望されない会員様のご返信は結構です。

以上

(3/3)

|  |
| --- |
| 山﨑　夏生　(やまざき　なつお）氏　経歴ご紹介 |
| 昭和30年　7月 |  | 新潟県上越市で誕生 |
| 49年　3月 |  | 新潟県立高田高校卒業 |
| 54年　3月 |  | 北海道大学文学部国文科卒業 |
| 4月 |  | 日刊スポーツ新聞社・東京本社に入社 |
| 56年12月 |  | 同社を退社 |
| 57年　3月 |  | パシフィック野球連盟と審判員契約を締結 |
| 59年　7月 |  | 一軍戦に右翼線審として初出場（西武対南海） |
| 同月 |  | Ｊｒ・オールスター戦出場(以後３年連続出場） |
| 61年10月 |  | イースタン・リーグ優秀審判員賞受賞 |
| 63年10月 |  | 一軍戦で初球審（ロッテ対南海） |
| 平成元年 4月 |  | 一軍戦レギュラーメンバーに昇格 |
| 5年　1月 |  | ジム・エバンス審判学校（フロリダ）へ派遣留学 |
| 6年　7月 |  | オールスター戦に初出場 |
| 7年　4月 |  | パ・リーグ開幕戦（西武対ダイエー）にて球審 |
| 11年　7月 |  | 一軍公式戦１０００試合出場達成 |
| 19年　7月 |  | オールスター戦に２度目の出場 |
| 22年　7月 |  | オールスター戦に３度目の出場 |
| 10月 |  | 千葉マリンスタジアム最終戦（ロッテ対オリックス）にて現役引退 |
| 12月 |  | 日本野球機構（ＮＰＢ）と審判技術指導員契約を締結 |
| 24年　3月 |  | 著書「プロ野球審判　ジャッジの舞台裏」（北海道新聞社）を発刊 |
| 30年12月 |  | 日本野球機構を退職 |
| 31年　1月 |  | 「審判応援団長」として審判の権威向上と健全なる野球発展のために講演・執筆を中心に活動を開始、現在に至る |
| 令和2年 5月 |  | 著書「全球入魂！プロ野球審判の真実」（北海道新聞社）を発刊 |

平成22年終了時までに現役生活29年、一軍公式戦1451試合に出場

審判技術指導員での8年間では、後進の育成に従事すると同時に北海道新聞、上越タイムス、

「ベースボールクリニック」等々で多くのスポーツコラムを連載